

福井県里山里海湖研究所
「研究員の活動発表会」

里山里海湖と人との関わり

研究員 福島 空

(森里海湖連環)

これまでの活動

学生時代「世界の森林と人の関わり」

- 中国内モンゴル: 砂漠化最前線で緑化活動
 - オーストラリア: 海岸外来種駆除、乾燥地帯の植林
 - 極東ロシア: 山間部先住民族の特用林産物活用、エコツーリズム等に関する研究
 - 南米チリ: 薪ビジネス、特用林産物活用によるコミュニティの自立に関する研究

 - 日本国内: 里山保全活動、里山保育、
森林認証、林業...etc.
- 国内外の森林と人の関わりを学ぶなかで、日本の農山村の魅力と課題に関心を持つ

農山村の地域づくり

- 各地の農山村で里地里山の保全と活用による地域づくり

→地域の魅力の掘りおこし

手法:「地元学」よそ者の視点から、地元の人
が地域の魅力を再発見

→魅力の発信・活用による地域の活性化

手段:エコツーリズム、環境教育プログラム、
特産品開発等

事例①：群馬県川場村門前地区

- 村と世田谷区が「縁組協定」
→約30年継続して都市交流
- 年間を通して、観光客多い
- 門前地区は主要な観光拠点とは距離がある
- 観光客を呼び込むため、里山の活用を検討
→大学生、地元住民、専門家で地域の魅力ほりおこし調査

事例①：群馬県川場村門前地区

- 里山や集落の魅力を紹介したマップを作成
- 村内各施設で配布
 - 観光拠点から門前地区へ人の流れを作る
- 集落内をめぐりコースも紹介
 - 各店舗や地元のお母さんたちの直売所へ「小金」がまわる仕組み

事例②：三重県いなべ市古田地区

- 遊休農地対策として集落営農に取り組む
- 有限会社を設立し、区内90%の農地を耕作
- 直売店では、地元のお米を使った和菓子、農産物や加工品等を販売
 - 県外から買い求めに来る客も
 - 人気のあまり、類似品が
- 新たなコンセプト、新商品開発を検討

事例②：三重県いなべ市古田地区

- 地元ではフクロウを「ほうすけ」と呼び、昔から親しまれてきた
 - 地区全体を「ふくろうの里」として地域づくり
- 集落散策マップや、フクロウ看板を整備
- 生息環境づくり
(里山・ビオトープ整備、巣箱設置等)
- 「ふくろうの里くらし体験プログラム」で、都市農村交流
- フクロウをイメージした新商品の開発

事例②：三重県いなべ市古田地区

- おみやげで地域の魅力発信
- 受け取った人の「行ってみたい」につなげる
→新たな地域のファンづくり

事例③：岐阜県揖斐川町春日地区

- 伊吹山麓標高800m
「薬草の宝庫」
- 過疎高齢化が進み、草刈等の管理不足で有用植物が減少
- 地域出身者が中心となり、地域内外のボランティアによって遊休地を整備し、薬草の保全と再生活動

事例③：岐阜県揖斐川町春日地区

- 伊吹山麓のヨモギは香りが高く、品質が良い
- 菓子原料等の素材として販路を検討
 - 中国産ヨモギ(約1/2の価格)との価格競争
- 新たな商品開発、販売方法を検討
 - 適切な価格で販売、活動の持続性が重要
 - 商品を通じた新たな地域のファンを獲得
 - 保全活動・交流の促進による地域活性化

事例③：岐阜県揖斐川町春日地区

- 新たな顧客層開拓のため、デザインを検討
- 「お土産としてあげたくなるもの」
- 少量化
- 見た目

→都市住民、特に女性に好評

研究所の取り組む「森里海湖連環」とは

- 里山里海湖とひとをつなぎなおす

→新たな魅力発見

例) 資源の活用、特産品等

- 里山里海湖を仲介に、人と人をつなぐ

→地方と都市、世代と世代

例) 里のくらし塾、森のようちえん

- 関心を持つ人が増えることで、地域づくりに新たなアイデアが加わり、さらに地域が活気づいていく

- 多様な立場の人による、多様な関わりによって、里山里海湖から福井を元気に